

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3771700790
法人名	株式会社たくま福祉サービス
事業所名	グループホームせとの家
所在地	香川県三豊市詫間町詫間2073番地 (電話)0875-83-4123

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年7月9日	評価決定日	平成20年8月4日

【情報提供票より】(20年 6月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年7月15日・平成19年7月19日(ユニット増設)		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	20人	常勤 13人 非常勤 7人 常勤換算	15人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 5階建ての2階 ~ 3階部分
------	------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,300円	その他の経費(月額)	10,000円	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,150円		

(4)利用者の概要(7月9日現在)

利用者人数	16名	男性	3名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	78歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三豊市立永康病院 小野歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

詫間町の中心部に位置し、散歩や買物などに恵まれた環境にある。このグループホームは管理者が常に職員や利用者の中に入り、課題を持ちながら前向きに取り組んでいる。職員は利用者の人権を尊重し、一人ひとりの立場に立って、各々利用者本位の細やかなケアを一丸となって実践している。毎日の全員参加の散歩は、日常生活行動の低下防止や脳リハビリにつながる。利用者はいきいきと安心して暮らしている。ユニットも増設されており、地域密着型事業所として、さらなる発展を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では理念を実践するための制度の理解と活用、人材の育成と支援、安心と安全を支える支援の分野でいくつかの改善課題があったが、具体的に改善できるところから取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員でそれぞれの分野別に取り組む、管理者がまとめた。サービスの質向上のため、今後も課題を出し合って検討し、実践に活かしたいと前向きな姿勢がうかがえた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を開催して、事業所から現状報告や今後取り組みたいことなどを話し、双方向的な会議となっている。出された意見や要望などについては日々のケアに反映させるよう取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族などの来訪時には必ず声をかけ、意見や苦情、不安に思っていることなどを、話し易い雰囲気づくりに努めている。来訪が少ない方には電話をかけるなど対応している。出された意見や苦情などについては、職員が共有して会議で検討し、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は自治会に加入して、地域の行事には努めて参加するようにしている。小学校の運動会の見学や敬老会の案内をいただくなど、徐々に交流は深まりつつある。今後は運営推進会議を活かし、ホームを地域の会合に開放したり、介護教室を開いて講師として参加するなど、事業所から積極的にアプローチをしていくことを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、利用者と共に地域に根ざして暮らしていこうと頑張っているが、理念に地域との交流がみられない。	○	これまでの理念に地域との関係性を深める内容を、つけ加えていかれることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝関わり時に入居者と一緒に理念にふれて共有しており、日々のサービスに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、自治会に入会してゴミだしや清掃に参加したり、小学校の運動会の見学に行くなど地域の人々と積極的に交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解して、今回、自己評価では全職員がそれぞれの分野で取り組み管理者がまとめた。前回の外部評価の結果についても、具体的に解決できることから改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回会議を開催して、事業所からサービスの実際や取り組み状況を報告して、意見や要望を受けて運営に反映させている。	○	運営推進会議には、利用者家族、地元自治会長、老人会会長、地域包括支援センター、市職員等幅広い立場の人が参加されて、率直な意見をいただき運営に反映させることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所から相談に行ったりホーム便りを届けたり、また市からいろいろ情報を貰ったりと連絡を密にして、共にサービスの質向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族などの来訪時には、利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動などについて個々に報告をしている。また2か月に1回、写真入りで家族へ現状報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しているが現在まで投函はない。また、外部へ意見などを表せる機関も紹介している。家族などの来訪時には、話がし易い雰囲気づくりに努めている。得られた情報は全職員が共有して運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、職員が退職する前に採用予定があればダブリ期間を設けたり、退職は自然体として、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、職員がそれぞれの段階に応じた研修に参加できるよう配慮をしている。参加者は、報告書を提出して他の職員が目を通すようにしたり、朝のミーティング時に報告をしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、グループホーム協議会に加入して地域の同業者と交流する機会があるが、職員は同業者と交流する機会がない。</p>	○	<p>職員も地域の同業者と交流を持って、交換研修や学習会、情報交換などを行いサービスの質向上に努められることに期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が訪問をしたり、デイサービスの利用や家族などと一緒に見学に来て貰ったりして、納得をしてサービスを開始している。また、体験宿泊をして安心して入居された利用者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の思いやこだわり、楽しみごとなどを把握している。また、一人ひとりの得意とする分野も共有して、教えて貰う場面もあり共に支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から本人の思いや希望、意向の把握に努め、利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族などの思いや意見、希望を聞き、主治医の意見を取り入れながら全職員でカンファレンスを行い、気づきや意見、アイデアを活かして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しを行っているが、見直し以前に変化が生じた場合は、本人や家族など関係者と話し合い、状態に応じた介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や特別な外出など、必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関以外にも、本人や家族などの希望するかかりつけ医とは常に連携を密にして、いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から本人や家族など関係者と話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はみられない。記録など個人情報の取り扱いについても徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールは持っているが、利用者一人ひとりが自分のペースで過ごしており、職員は見守りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで、和やかに会話をしながら食事を楽しんでいる。食後の片付けも利用者が職員と一緒に得意そうに行っていた。	○	利用者と職員が共に暮すという観点から、職員と一緒に同じものを食べることで利用者の好みや味の確認もできる。同じものを食べるメリットについて話し合うなど、さらなる取り組みが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は日中の入浴を希望され、日替わりで順番を決めて入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、一人ひとりの出番、役割を把握しており、それを見い出して力を発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩は、利用者の習慣となっている。周辺が比較的安全なので、散歩や買物など外出の支援はし易い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、一人ひとりのその日の気分や状態を把握して共有し、見守りを徹底して鍵をかけないケアを実践している。外出しそうな様子を感じたら、さりげなく声をかけたり、一緒に歩くなど支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携をとり、年に2回利用者と一緒に避難訓練を行っている。避難経路の確認も定期的に行っている。地域住民の協力が得られるまでには至っていない。	○	日頃から地域住民と交流を保ち、災害時にはお互いに協力体制が築けるよう、事業所からの関わりが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、一人ひとりのチェック表を作成し、食事や水分摂取量を記録して把握している。摂取量が少ないと感じた時は、主治医に相談して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者の行事参加の写真や、季節を感じられる折り紙を掲示している。また、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう、ソファやテーブルの位置など利用者の希望も取り入れ工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、使い慣れた馴染みのものや、好みのもので自由にレイアウトでき、利用者が安心して居心地よく過ごせる工夫をしている。		